



## 秋の交通安全教室

よく見て、よく聞いて、よく考えて  
たったひとつの命を自分で守る！

5日(金)の学校行事で今年度3回目となる交通安全教室を実施しました。今回は、桐生警察署交通課の田代行広巡查部長と、群馬県トラック協会から榎渕竜男ドライバーを講師にお招きして、校庭でトラックを使った3つの実験をおこないました。

## ① 制動実験

トラックが時速20kmで走行した場合と、時速40kmで走行した場合でブレーキをかけた際、停止するまでにどのくらいの距離を進んでしまうかを実験しました。トラックが時速20kmで走行した場合は6.4mの制動距離が必要で、時速40kmで走行した場合は13.5mも必要でした。

急な飛び出しは絶対にはいけないことを、子どもたちは「よく見て」理解できました。



## ② 内輪差実験

自動車がコーナーやカーブを曲がる時に生じるのが内輪差で、トラックなどの大きな車になると、その差はとても大きくなります。積み重ねた段ボールを人に見立てて交差点に立たせ、トラックがコーナーを左折した際の前輪と後輪の軌道の違いを確認する実験をおこないました。

前輪は段ボールには触れなくても、後輪が前輪よりも内側を回り、段ボールを倒したり潰したりする危険性を、子どもたちは「よく見て」確認しました。



## ③ 死角実験

トラックの運転席には死角があって、子どもがトラックの周りに立っていても、しゃがんでいても見えないポイントがあることを、運転席に教員が座り、止まっているトラックの周りに子どもたちが立って実験をしました。

トラックのすぐ前や真後ろなど死角になるポイントがたくさんあり、子どもたちは止まっているトラックの危険性について警察官の説明を「よく聞いて」学びました。

3つの実験から学んだことを道路歩行や自転車運転の際に生かし、交通事故に遭わない安全な生活を送ってほしいと思います。正しい判断と行動で、たったひとつの大切な命を自分で守る！

